

技術概要書（様式）

※

出展技術の分類	安全・防災 インフラDX 維持管理 環境 コスト 品質 (該当分類に○を付記)		
技術名称	藻場再生プロジェクト「藻藍部」	担当部署	MCC研究所新技術研究室
NETIS登録番号		担当者	吉田恭平
社名等	三井共同建設コンサルタント株式会社	電話番号	080-3061-0958
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機		
	<ul style="list-style-type: none"> ・地方自治体は、人口減少・少子高齢化等の社会環境変化、地球温暖化に伴う自然環境変化の両面から、1次産業衰退の危機に直面しています。 ・自然環境変化に伴う地域課題に対し、ソフト的解決を図る場合、住民やNPO法人による共助活動が考えられる。しかし、資金調達の不安定さや後継者不足等の課題により、従来のボランティアだけでは事業継続が難しいです。 ・そこで、当社は自らが主導し地域団体等と協働で事業を立ち上げ、地域課題解決につながる収益化事業を創出し、地域で自走可能な状態となるまで運営を支援し、最終的に地域単独での運営に引継ぐビジネスモデルの実装に取り組んでいます。 		
	2. 技術の内容		
	<ul style="list-style-type: none"> ・IPCC第5条評価報告書のRCP2.6(定位安定化)シナリオ下でも重大な影響が認められ、対応緊急性が高いとされる水産業、とりわけ地域の漁獲量に直結する磯焼け被害の解決を図る仕組みを構築しました。 ・全国的に問題視されている「磯焼け(藻場の喪失)」、この問題は徳島県美波町でも例外ではありません。 ・私たちはこの問題解決に向け、地元関係者で一般社団法人藻藍部を立ち上げて、藻場再生を軸としたアクションを行っています。 ・「アイゴをつかった地場産品の開発」や「藻場・漁場再生資材の開発」を通して、地域の発展・地球の未来のための好循環モデルの構築を目指しています。 		
	3. 技術の効果		
<ul style="list-style-type: none"> ・水産業、特に漁業従事者に対する収入増 ・磯焼けに苦しむ沿岸域の生態系の回復 ・ブルーカーボンの創出 			
4. 技術の適用範囲			
<ul style="list-style-type: none"> ・沿岸域に位置し、磯焼けに苦しんでいる自治体・漁業従事者。 			
5. 活用実績			
<ul style="list-style-type: none"> ・徳島県海部郡美波町 			

6. 写真・図・表

1. 藻藍部プロジェクトとは？

地域課題である**藻場再生**を通じ、地場水産関係者とサテライトオフィス企業との連携を強化して、地元一丸となって美波町を起点に、**水産業（地域経済）と海の生態系（環境）の好循環を構築**します。



2. 活動資金の調達「企業版ふるさと納税の活用」

藻藍部に共感してくれる**企業**より寄付をいただき、その**寄付金を財源**に藻藍部のプロジェクトを推進します。



③ 販売する - sell -

- ・ BtoB販路開拓
- ・ ECサイト・ふるさと納税返礼品としての販売
- ・ 飲食店と更なる加工品開発
- ・ 町内の飲食店に対するアイゴ料理の売上の5%を**販売奨励金**を助成

これまでに7者の飲食店とアイゴ加工品を開発



④ 再利用する - reuse -

- ・ しいたけ廃菌床・ウニ殻・酒粕でつくる県内廃棄物による藻場増殖資材を開発中。**栄養塩不足の町内海域に投入**し、環境改善を図る。
- ・ 美波町一般廃棄物再生利用業者として認証を受け実施中。

オール徳島県の廃棄物でつくる藻場増殖資材



にぎやかそジョブチャレンジの様子

⑤ 育てる - grow -

- ・ 水産技術者の人材育成
- ・ カジメ・アラメの培養
- ・ 光合成によりCO2を固定し、ブルークレジット申請、モニタリング
- ・ **遊漁者へのマナーアップと啓蒙を兼ねた釣り大会の継続開催**

7/17（日）第1回 I GO TSURIBITO CUP開催



遊漁船の渡船代のクーポン化を準備中！

3. どのようなプロジェクトを行うのか？

食害魚や未利用魚を①獲って②加工して③売り、④廃棄物を再利用し、⑤磯根資源・人材・環境価値・文化を育む体制を構築する、川上から川下までの5つのアクションを推進します。



① 魚獲する - catch a fish -

- ・ 食害魚（アイゴ・ブダイ）の**最低価格買取制度**
- ・ 磯焼け対策法に対する助成（魚網や備品購入が対象）
- ・ 農山漁村活性化事業の補填

@300円/kg未滿の取引は町から補填



アイゴやブダイの浜値を上げ、水揚げし食べることで磯焼け対策を行う！

② 加工する - processed fish -

- ・ 志和岐漁港にある美波町魚介類畜養施設の**下水道工事やフェンスの撤去・設置費等に充当**します。
- ・ 由岐漁協から指定管理者を変更し、**水産加工場**として改装予定です。

株式会社マルキョウ・株主と連携しアイゴの一次加工を展開



4. 社団法人メンバー

- ・ 正会員（社員）は設立時社員2社を加え、計11名で組織されている。
- ・ 漁協、地元水産種苗会社、サテライトオフィス、町役場で構成された多様な利害関係者が一致団結した官民連携の体制を構築。

一般社団法人藻藍部の体制

NO	役職	概要（所属等）
1	代表理事（正会員）	日和佐町漁業協同組合組合長（海部上瀬委員会会長）
2	理事（正会員）	三井共同建設コンサルタント主任技師
3	〃（正会員）	うみの株式会社代表取締役社長
4	〃（正会員）	株式会社まめぞうデザイン 代表取締役
5	〃（正会員）	阿部漁業協同組合組合長
6	〃（正会員）	由岐漁業協同組合組合長
7	〃（正会員）	木岐協同組合組合長
8	監事（正会員）	弁理士法人豊橋特許事務所
9	正会員	美波町産業振興課課長補佐
10	正会員（設立時社員）	日和佐町漁業協同組合（法人として）
11	正会員（設立時社員）	三井共同建設コンサルタント（法人として）

5. 8/27 IGO TSURIBITO CUP

- ・ 多くの遊漁者がリリースしてしまう「アイゴ・ブダイ」を回収し、地元飲食店で活用していただく循環型のイベント実施。
- ・ 今年の8月27日は、シュノーケリングフィッシュと環境学習をメインにファミリーを対象としたイベントを実施予定。

I GO TSURIBITO CUPの様子

